



三條市立 一ノ木戸小学校

◆学校データ	
【学級数】	27学級
【児童数】	629名
【地域コーディネーターの有無】	有

豊かな関わりを求めて、自分の可能性を拓く子ども

1 はじめに

明治6年に開校の当校は、今年で創立147年目を迎える。学区には二つの主要幹線道路が通り、JR東三条駅にもほど近い。市の中心地に位置し、交通の利便性がよいことから、公共施設や商店、三条市伝統の金属加工工場が集まり、住宅街も広がっている。歴史の長い当校は、地域からの関心も非常に高い。また、歴史、文化、産業等、児童が地域を学ぶための人材が豊富であり、生活科、総合的な学習の時間等において活用している。

平成24年からは、第二中学校との一体型校舎において、小中一貫教育を推進している。一貫教育の前・中期にあたる小学校段階では、前期(小1~4年)「地域よさや行事を体験させる」、中期(小5~中1)「地域への貢献活動や行事への参加」を通して、豊かな関わりを求めて自分の可能性を拓く児童を目指している。以下、特徴的な活動を紹介する。

2 取組の実際

(1) 地域よさや行事を体験する活動

(前期:小1~4の活動)

① 3年総合的な学習の時間

3年生では、「三条を知ろう」をテーマに、年間を通じて、三条祭や凧合戦などの行事の他、車麩、刃物づくりなどの産業について体験的に学び、三条市のよさを実感する。

凧合戦について調べる活動では、凧協会の方々より凧合戦の歴史や凧作りについて教えていただき、実際に自分たちも凧を作ってみたり、凧合戦で用いる実物の凧を協会の方々

の指導で実際に揚げる体験を行ったりする。大きな凧がダイナミックに空に舞う様子や力強さ、情熱や誇り



をもって伝統の凧合戦を継承している凧協会の方々に児童は魅了される。総合的な学習の時間における三条市の誇れる行事や産業、伝統文化等についての学びは、学習参観日において、学習の成果発表を行う他、今年度は、三条市の紹介チラシにまとめ、発信する予定である。

② 4年総合的な学習の時間、社会科

4年生では、地域を流れる五十嵐川について総合の時間を中心に、社会科との合科的な学習において追求していく。

守門岳を源流とし、澄んだ水の流れる美しい風景が多くの人々に愛されていることや、漁業などこの川からの恵みについて実際に川を歩き、多くの方々と触れ合いながら学ぶ。

一方で、7.13水害をはじめ、過去には繰り返す水害を繰り返して、三条の人々に大きな被害を与えてきたことも学ぶ。繰り返される五十嵐川氾濫による甚大な被害から力強く町を復興させた人々の力強さや治水に努力してきた先人の偉業について学ぶことで、地域や地域の先人の働きについて強い誇りを抱く。

また、7月には、7.13水害、7.29水害の被災体験を語り継ぎ、防災意識を高めるため、「車座語りの会」を行い、多くの地域の方々から、被災

体験を聴く活動も行っている。

(2) 地域への貢献活動や行事に参加する活動 (小5～中1の活動)

① 6年生総合的な学習での活動

6年生では、これまでの三条市に関する学びを振り返ったり、修学旅行で訪れる佐渡と比較したりしながら、あらためて自分たちの暮らす三条市について見つめ直したりする。また、キャリア教育とも関連させ、将来、三条市を担う自分たちは、どのように三条市に貢献していくのかを考えたり、小学6年生の自分たちは、今、どんなふうに関与できるのかを考え、実行したりする活動を行う。昨年は、三条夏祭りを盛り上げ、地域に貢献したいと多くの児童がパレードに参加をした。

② 全校地域貢献活動(全校町内清掃)



10年以上継続している取組である。全校児童が自治会の方々、PTA役員、保護者と共に、自分の地域の清掃活動を行う。清掃活動を行いながら、普段はなかなか触れ合う機会の少ない地域の方と児童が知り合い、触れ合うことのできる貴重な場ともなっている。活動を行いながら、地域の方々の児童への期待や願いについてもお話しいただく。児童は活動を通して、地域の大人の温かいまなざしに触れることができ、地域に対する愛着を深める。

③ 特設凧ばやしクラブの活動

三条市に伝わるお囃子を学校教育に生かそうと、40年以上も前から脈々と続く活動である。凧協会の方々と共に運動会などの学校行事で発表、市の祭りやその他の行事での出演依頼も多

い。校内外での様々な場で、行事を大いに盛り上げ、喜ばれている。それらの活動を通して、多くの方々や団体とつながりをもっている。また、その活躍の様子から、「4年生になったら凧ばやしクラブへ」と憧れをもつ児童も多い。

3 成果と課題及び本実践で育成された資質・能力

当校では小中一貫教育9年間を通じた活動に取り組んでいる。地域と関わりながら協働的に学ぶことを通して、児童は熱心に全校町内清掃に取り組み【自他の良さを生かし協力して活動する力】や、進んで夏祭りパレードへ参加する姿から【地域の活動に積極的に参加しようとする態度】が育ってきた。今後は、これらの活動を一過性に留めず、どんな力がどのように育つのかを明確にした教育課程を編成し、学校地域で共通理解する必要がある。

4 おわりに

地域教育プログラムは確実に子どもたちに地域愛を育てている。さらに前進させるために、これまでの取組を評価検討し、学校も地域もWin-Winの関係を築く教育課程の充実を図る。